

鳥取県環境学術研究等振興事業費補助金研究実績報告書

研究期間（ 1年目/ 1年間）

研究者 又は 研究代表者	氏名	(ふりがな) ふじた えつこ 藤田 恵津子
	所属研究機関 部局・職	公立鳥取環境大学環境学部 電話番号 0857-32-9118 (研究室直通) 電子メール fujtia@kankyo-u.ac.jp
研究課題名	移住定住者の心理適応とその課題を把握するための実証研究 ～心理臨床的視点から捉えたとっとり創生～（地域部門）	
研究結果	<p><b>研究方法</b> 半構造化面接のもと、移住定住者10名へのインタビュー調査を実施し、主な質問内容は①移住したきっかけ、②移住前後の気持ち、③移住を通しての自身の変容、④これから移住を考えている人へ伝えたいことである。</p> <p><b>結果と考察</b>①キャリア形成、アイデンティティの再構築、人生の統合、次世代のための関係性や環境づくり、②理想移住と現実移住に重要なキーパーソン・認知の切替え・開放性、③必要性の再検討や時間軸での思考、コーピングの試行、④体験者による多様な自助グループの重要性が指摘された。</p> <p><b>今後の課題</b> 7ヶ月という限られた期間にごくわずかな対象者へ行ったインタビュー調査であったため、今後は、期間と対象者を増やし、詳細な分析ができるよう検討を重ねていく必要がある。</p>	
研究成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 移住者の各発達課題や次世代のための関係性や環境づくりを視野に入れる。</li> <li>2. 理想自己と現実自己のギャップへの対処として、キーパーソンや認知の切替えがあげられる。</li> <li>3. 移住者のさまざまな属性に照らし合わせ、多様な自助グループの選択を可能にすることが重要である。</li> </ol>	
次年度研究計画	<p>[次年度の研究計画について簡潔に記すこと]</p> <p>本研究を予備調査として位置づけ、継続研究として科研等に申請し、研究機関および対象者を増やしていく予定である。</p>	
報告責任者	所属・職 氏名	[助成対象機関の窓口担当者を記入すること] 電話番号 電子メール

- 注1) 表題には、環境部門、地域部門、北東アジア学術交流部門のいずれかを記載すること。  
 2) 「研究期間（ 年目/ 年間）」及び「次年度研究計画」は、環境部門のみ記載すること。  
 3) 研究者の知的財産権などに関する内容等で、非公開としたい部分は、罫線で囲うなど明確にし、その理由を記すこと。  
 4) 研究実績のサマリーを併せて提出すること。

鳥取県環境学術研究等振興事業費補助金研究 (地域部門)

移住定住者の心理適応とその課題を把握するための実証研究  
 ～心理臨床的視点から捉えたとっとり創生～

公立鳥取環境大学  
 藤田 恵津子

1. 問題と目的

鳥取県の人口減少問題の対策として移住定住施策が推進されているが、就労や住居などに関する現実的な問題を対象とするものがほとんどであり、移住定住によるカルチャーショックやリエントリーショックなど心理臨床的テーマを扱った取り組みは今後の大きな課題と言える。「移住定住の相談体制の充実」は鳥取県の地方創生総合戦略にも掲げられており、今後さらなる増加が見込まれる移住定住者を受け入れるに際し、極めて重要な急務であると考えます。本研究は、鳥取県への移住定住者の適応とその課題について心理臨床的視点から明らかにすることで、移住定住相談体制の一層の充実を目指すものである。

2. 方法

鳥取県内への移住定住者へ電子メールや電話で本研究の趣旨を説明した上、調査協力を依頼した。その結果、10名から受託の了解を得た。10名の属性は以下の通りである。また、年代は、成人期前期（25歳～45歳）、成人期中期（45～65歳）、成人期後期（65歳～）という区分で示し、偏りが生じないようにほぼ同比率とした。移住形態は、UターンまたはIターンのいずれかとなった。

表1 インタビュー対象者の属性

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
性別	男	男	女	男	女	女	男	女	男	女
発達過程	成人期後期			成人期中期			成人期前期			
移住形態	Uターン	Iターン	Iターン	Iターン	Iターン	Uターン	Iターン	Uターン	Uターン	Uターン

3. 結果と考察

「キャリア形成」や「アイデンティティの再構築」、そして「人生の統合」などさまざまなきっかけを起点として移住という選択肢が芽生える中で、「次世代のための関係性づくり、環境整備」を目指していることがうかがえる。「理想移住と現実移住のギャップ」をより小さなものへとするために、「キーパーソンの存在」が指摘されたが、一方で思考や気づきなど「認知の切替え」や「外への開放性」など個々人で取り組めるテーマも重要であることが示された。また、移住による変化の激しい混乱期の対処として、「必要性の再検討」や「時間軸での思考」、さまざまな「コーピングの試行」についても語られた。そして、「最優先課題の選択」や精神的な安定につながる「体験者との交流」の重要性や、そのような「自助グループの多様な選択肢」の必要性も指摘された。

4. 今後の課題

本研究を予備調査として位置づけ、継続研究として科研等に申請し、研究機関および対象者を増やしていく予定である。